



平成 31 年 1 月 9 日
佐賀大学理工学部

インドネシアのスラバヤ工科大学とカリマンタン工科大学から 大学生・大学院生を受け入れ科学技術研修等を実施

【概要】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」の科学技術研修コースの採択を受け、インドネシアの大学から 1 名の大学院生と 3 名の大学生を理工学部機能物質化学科に受け入れて、10 日間の研修活動プログラムを実施しました。

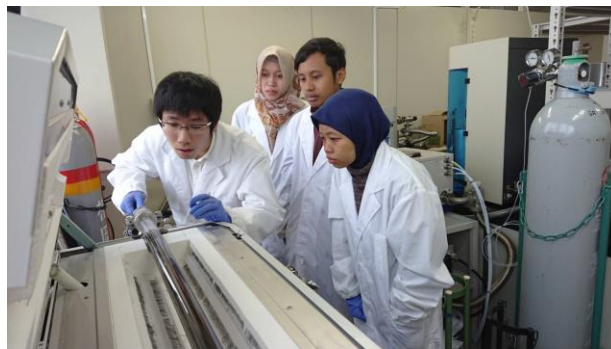
【本文】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「さくらサイエンスプラン」の交流活動として、2018 年 12 月 4 日から 12 月 13 日の 10 日間、インドネシアのスラバヤ工科大学の大学院学生 KARTIKA ANORAGA MADURANI さん、学部 4 年生 MUHAMMAD RICKI ROMADHONI さん、カリマンタン工科大学の学部 4 年生 HENDRICK ANDREAS BENAYA TANDAU さん、学部 3 年生 TITIN AGUSTINA の 4 名が、機能物質化学科 生物電気化学研究室（富永 昌人 教授）において科学技術研修等を行いました。

【科学技術研修】 カーボンナノチューブ複合電極の作製法を修得しました。また、その作製した電極界面を金ナノ粒子で機能化したグルコース検出センサの作製法と評価方法を習得しました。また、ナノカーボン修飾電極を用いた微生物燃料電池の作製とその評価を行いました。

プログラム最終日には、4 名の招聘学生が、母国大学での研究紹介と本プログラムで得られた研究成果について、各 20 分程度の英語でのプレゼンテーションを行いました。日本人学部生・大学院生も、各自の研究を 10 分程度英語で紹介しました。

【体験プログラム】2018 年 12 月 8 日（土）、熊本市街を訪ねて、2016 年 4 月の熊本地震



で被害を受けた修復中の熊本城や水前寺成趣園などを視察しました。2018年12月11日（火）、佐賀市エコプラザ、大隈重信記念館と生家を訪ねて、佐賀市と日本の歴史との関わりや佐賀のバイオマス産業都市への取組についても理解してもらいました。



【日本人大学院生の感想】本プログラムを通して、メインで支援をした日本人大学院生から以下のような感想を頂きました。

MTさん：主に2人の学生に対して電気化学の実験についてレクチャーしました。インドネシアの学生はとても真剣に話を聞いてくれて、疑問があればなんでも投げかけてくれるので自分も勉強になることがたくさんありました。また他のメンバーで普段あまり留学生と話さない人も、今回はコミュニケーションを取っていて研究室にとっても良いプログラムだったと思います。



SOさん：今回のプログラムではインドネシアからの学生4名を担当しました。留学生と共に実験することで、お互いの知識やノウハウの共有ができ、双方の研究の進展につながったと思います。本プログラムを通して、英語での深い議論をできたことが自身の一番の成長と感じました。

